

新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）

事業名(主)	困難を抱えた10代にLINEで相談事業
事業名(副) ※任意	

入力数 主 19 字 副 0 字

実行団体名	認定NPO法人D×P
資金分配団体名	公益財団法人 信頼資本財団

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>	
------------------------	--------------------------	--

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_4.質の高い教育をみんなに

実施時期	2021年5月 ~ 2022年2月	事業 対象地域	全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域 <input type="checkbox"/> ( )	事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む)	・不登校や高校中退者 ・進路未決定の10代 ・経済的困窮の10代 ・ひとり親の10代	事業 対象者人 数	
------	-------------------	------------	---	---	---	-----------------	--

I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会を目指し、生活困窮、ひきこもりなど若者がどんな境遇にあってもつながりが得られる状態をつくりまします。2030年度までに、孤立している13-19歳・全国約50万人のうちの15万人に対して ①3人以上、3つ以上の居場所や頼れる人がいる ②毎月20万円以上の生活費が得られている ③安心して住める場所がある という3つの状態を提供できる状況をつくりまします。
(2)申請団体の概要・事業内容等
学校現場（オフライン）とオンラインで10代につながりをつくりまします。 【オンライン】 10代が利用しやすいLINEを使い進路や生活相談を実施 <a href="https://www.dreampossibility.com/yukisakichat/">https://www.dreampossibility.com/yukisakichat/</a> 【学校現場】 経済的困難、不登校や中退経験、発達障害などの多様なニーズを抱えた高校生が集まる定時制高校の中で、高校生が人とつながるための「授業」と「居場所事業」を実施

入力数 (1) 196 字 (2) 200 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
日本では約4割の若者が「自分の将来に対して明るい希望がない」（内閣府調査）と回答しています。経済的困難な状況に当たり、何らかの障害を抱えているなど、様々な生きづらさを抱えた10代は、多様な事情が重なり合っています。それらの事情により精神的な負荷も高く孤立しやすい状況です。新型コロナウイルス感染症の影響により、もともと困難を抱えていた10代はコロナ禍で大打撃を受けるなか、直近の生活や、これからの進路・就職・転学について誰かに相談したり、考えたりすることがより難しくなっています。コロナ禍により内定取り消しやバイトのシフト削減・休校の長期化によるメンタルの悪化の声が届いています。日本全体で雇用状況が悪化しているため、保護者の経済状況も悪化したという声も届き、明日の生活にも不安を抱え孤立している10代が増えています。当団体はオンライン相談事業を2019年から開始してきました。緊急事態宣言発令直後・長期休みに入ると登録者数が急増し、2020年3月に登録者が約700名でしたが現在は4000名を超えました。 困難を抱えた時に頼れる相談先の一つとして、厚生労働省が予算化して行う SNS でのいじめ・自殺相談があります。相談件数は年々増えていますが、相談員不足で相談をしてもつながりにくい、10代が生活導線のなかでその SNS を見つけにくい面もあることが課題です。また「進路」や「中退」に特化した SNS 相談も、一部の私立高校を除いてはほとんどない状態です。

入力数 634 字

III.事業内容

<b>(1)事業の概要</b>
<p>経済的困難やひきこもり、障害などの背景で孤立しやすい10代に、LINEで相談を行います。オンライン上で気軽に生活相談や進路や就職に関する相談ができる仕組みをつくり、ひとりひとりの特性に合ったつながりと、本人が次のステップを踏めるよう働きかけます。直近の生活が逼迫した相談者には、食糧支援や現金給付（現金給付は既存の公的支援の枠組みを利用させることを優先としますが、緊急的な生活の立て直しと、落ち着いて仕事探しをするなど次へとつなげるために支給します）を行ない、スキルをつけたい相談者にはパソコン支給をします。虐待、自殺など重たい相談の場合は自治体、企業とも連携し、次の一歩へとつなげます。</p>

入力数 294 字

<b>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</b>
<p>近畿圏在住の、さまざまな状況により困難を抱え孤立している10代ひとりとりが、頼れる先があり次への一歩へとつながっている状態を目指します。</p>

入力数 68 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>困難を抱えた2000人の10代がユキサキチャットに登録する。 ユキサキチャット登録者の中で、さまざまな困難な状況を抱える10代1000人の相談に応じる。 相談後、なにかにつながった回数（ネクストアクション数）は1000回となる。 相談事業のノウハウを他団体に共有する研修イベントを10人（団体）に実施する。</p>	<p>ユキサキチャット登録者数、相談者数 ネクストアクション数 食糧支援数 現金給付数 パソコン配布数 研修実施数</p>	<p>登録者数のカウント 食糧支援の数カウント 現金給付人数カウント パソコン配布台数カウント ネクストアクション数カウント（人 とつなげる、就職につなげる、深刻 ないじめ相談などは個別対応につな げるなど相談を受けて次の一歩へと つながった数） 研修実施数</p>	<p>ユキサキチャット登録者数：累計 6000人 相談者数：1000人 食糧支援数：のべ180人 現金給付：80人 パソコン給付：80台 研修を受けた人数もしくは団体数： 10 ※成果目標のなかには近畿圏以外の人も含まれています。 ご報告時には近畿圏の人数を併記することは可能です。</p>	<p>2022年2月末</p>

(4)活動	時期
ユキサキチャットにて不安や困りごと、進路や就職の相談を実施	2021年5月～2022年2月
毎月のべ20人～30人に食糧支援	2021年5月～2022年2月
現金給付の募集と配布	2021年5月～2022年2月
PC寄贈の募集と配布	2021年5月～2022年2月
他団体への研修イベント実施	2021年5月～2022年2月

IV.事業実施体制

<b>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</b>	<p>事業統括：今井紀明 相談対応：佐々木貴史、大宅穂香、岡崎拓也、鈴木有紀、井階正純、中園優輝、若井彩美、新スタッフ1名 企業連携対応：岡崎拓也 食糧支援、PC寄贈対応：佐々木貴史</p>
<b>(2)他団体との連携体制</b>	<p>①Yay!（イエイ） 200万ユーザーが利用するコミュニティアプリYay!内にD×Pの相談室を設置 ②株式会社アッテミー 就職希望者に高卒就労の企業を紹介 ③認定NPO法人育て上げネット サポート対象の年齢層が上がった場合や、相談者が関東近郊にいる場合に相談先としてつなぐ</p>
<b>(3)想定されるリスクと管理体制</b>	<p>LINE株式会社の利用規約に準じてユキサキチャット事業を行ないませんが、強制的にアカウントが停止されるリスクがあります。また今後、新型コロナウイルス感染症の状況や、天災が起こるなどがあれば、大きく寄付額が下がることも考えられます。その場合は相談内容を絞るなど事業を縮小する可能性があります。 自殺や虐待などのヘビーなケースが増えており、命に関わるリスクを想定する必要があります。アドバイザーの辻由起子さんに対応方針についてのアドバイスや対応研修を行なっていただいたり、ユキサキチャットの利用規約を弁護士を改定して法的なリスクヘッジをしています。</p>

V.関連する主な実績

<b>(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無</b>				
<b>コロナウイルス感染症に係る事業</b>				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	花王株式会社、いのちとところを守るSOS基金、株式会社セールスフォース・ドットコム ※2020年～2021年に助成いただて
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>			※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）
<b>(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績</b>				
<p>ユキサキチャット内でアンケートを実施 2020年4月と8月に実施したアンケートによると、バイトをしている人の約半数がコロナの影響で収入が減ったと答えています。また在宅ワークに興味がある10代の中で約半数がパソコンを持っていないことがわかっています。 2021年3月に実施したアンケートによると、55%が経済的に苦しい状況であることがわかりました。（あなたのおうちの暮らし向きを教えてください）</p>				